



群馬県立がんセンターだより

第36号

発行 平成 29 年 10 月 群馬県立がんセンター

理 念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利と意思を尊重します。
2. 地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
3. 教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

医療安全について

医療安全管理室長を兼任しておりますので、今回は、医療安全に関して書きたいと思います。

時々、新聞やテレビのニュースなどで検体取り違いなどの医療事故についてお聞きになったことがあるかもしれません。以前、わが国でも患者さんを取り違えて手術を行うといったことが起こり、医療安全に対する関心が高まりました。

“To err is human”（人は誰でも間違える）という報告が1999年に米国医学研究所から出されました。この言葉は医療安全ではよく引用されています。

この報告の中でこの後に続く言葉があり、“しかし、間違いは防ぐことができる”と書かれています。どんなに注意を払っていても人は間違いを犯すことがあるが、システムをきちんと作り上げれば間違いを防ぐことができるということがこの報告の根底にあります。そのためのいろいろな提言・提案がされています。

この報告は20年近く前の報告ですが、人間の記憶だけに頼らない方法を行うことや薬の治療の時にバーコードを使用するなどの提案がすでにされていました。

そして現在まで、各々の病院は間違いが起こらないようなシステム作りに努力しています。患者さんを間違えてしまうこと（誤認）に対する方策の1つとして、バーコードの印刷されたリストバンドを使っての確認があります。他の病院ではすでに導入されていますが、当院では本年5月の電子カルテの更新に合わせて入院の方に対して導入しました。

この方法について点滴を例として説明します。まず電子カルテから入力された指示により点滴が薬剤部で準備されます。そこで準備された点滴にバーコード付きシールを貼ります。点滴を開始する前に、リストバンドのバーコードと点滴に貼られたバーコードをリーダーで読み取ります。両者がきちんと読み取られた場合にその方に処方された正しい点滴であることが認識されます。このように正しく点検が行われたことを確認してから点滴を開始しています。

このほかにも、外来での検査や処置の時の確認として、ご自身のお名前を名乗っていただいたりしております。面倒とお感じになるかもしれませんが、これも誤認防止の1つです。間違いのない診療を行っていくためにご理解いただきたいと思います。

安心・安全な医療の実現のために、皆様方のご協力もよろしくお願い申し上げます。

副院長 湊 浩一



部 署 紹 介

消 化 器 外 科

消化器外科では、食道、胃、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓におけるがんの治療（手術、抗がん剤治療）を各臓器の診療ガイドラインに沿って行っています。6人の外科医がそれぞれの専門分野を担当し、病棟では毎朝全員で回診を行うチーム医療を行っています。治療方針は、毎週開催される消化器外科医、消化器内科医、放射線科治療医・診断医、手術室看護師ら多職種によるカンファレンスで検討して決めています。

食道がんでは、手術は全例鏡視下で行っています。以前の手術に比べ傷が小さく痛みも少ない低侵襲手術で回復も早くなっています。肺合併症予防のため多職種（医師、看護師、リハビリ理学療法士）による周術期リハビリプログラムを作成し実行しています。Stage II, III の患者さんには、術前化学療法を約2か月行ってから手術を行うことにより再発が減少するというデータがあり、同様に行っています。化学放射線療法後の救済手術も鏡視下で行っています。

胃がんでは、日本胃癌学会のガイドラインに沿って手術適応を決めているため鏡視下手術は早期がんが適応で約20%です。抗がん剤の進歩により切除不能進行がんに対して化学療法を先行して手術可能になる症例も増えています。

大腸がんでは、鏡視下手術が進行がんでも適応とし約80%の患者さんに行われています。低侵襲であると共に細部まで、また深部まで観察が可能で手術が安全に行われています。また、抗がん剤の進歩により化学療法による効果も増え、長期にわたる外来化学療法を行っています。治療効果と共に副作用も様々で、外来化学療法センターでは、看護師・薬剤師と共に、副作用予防、対策を行っています。

肝胆膵臓のがんは、高度な技術を要する手術が必要になります。専門的な経験を持つ医師が安全で確実な手術を行っています。

消化器外科では、最新の治療を取り入れ、安全で合併症ゼロを目指して治療を行っています。患者さんにわかりやすく、安心して治療を受けられるよう丁寧な説明を心がけています。



写真左より

小澤直也医師、深井康幸医師、尾嶋 仁医師
小澤大悟医師、持田 泰医師、小川 敦医師



消化器外科長

尾嶋 仁

イリョウツウヤク セイド
医療通訳ボランティア制度を
 シ
知っていますか

イリョウツウヤク ビョウキ コトバ モンダイ チリョウ
 医療通訳ボランティアとは、病気になったときなどに、言葉の問題で治療
 を受けられないことがないように、医師などとのやりとりを通訳するボランティア
 伊シ ツウヤク
 です。病気、検査などの説明に利用できます。

ニホンゴ キ ハナ ニガテ ビョウイン イ コマ ガイコクセキ
 日本語を聞く・話すことが苦手で病院に行けないなど困っている、外国籍
 ゲンマケン ス ヒト
 で群馬県に住んでいる人のためにあります。

ゴ ゴ チュウゴクゴ ゴ ゴ ゴ
 スペイン語・ポルトガル語・中国語・エイ語・ベトナム語・タガログ語・
 ゴ カンコクゴ ゴ ゴ
 インドネシア語・韓国語・タイ語・ネパール語（2015年12月末現在）
 ツゴウ ハケン
 ※ボランティアの都合で派遣できないことがあります。

ヒョウ エン コウツウヒ リョウ ヒト ツウヤク
 費用は 2000 円です。（交通費として、利用した人が通訳ボランティアへ
 ハラ
 払います。）

ゴソウダン
御相談は
 ソウダンシエン
がん相談支援センターへ！



仕事と治療の両立

毎年、日本では、20歳から64歳までの約22万人ががんと診断されています。また、実際に治療を続けながら働いている人は約32.5万人いることが明らかとなっています。

このような現状から、群馬県では平成25年度に「がんにならない、がんになっても安心して暮らせる地域社会の構築」が新規目標として掲げられました。

そこで当センターでは、平成25～26年度に県のモデル事業として、就労支援に関する専門家（社会保険労務士等）と医療ソーシャルワーカー（MSW）が協力し、がんと診断された時から就労に関する相談を受けることができるよう体制を整えました。現在はハローワーク太田と連携し、再就職の支援を行っています。

がんと診断された後の解雇問題、治療を受けながらの就労継続、治療後の復職に関する相談、治療中・治療後の休職に関する相談、傷病手当金や障害年金等の社会保障制度、再就職でお悩みの方はがん相談支援センターにお気軽にお寄りください。

外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成29年10月1日現在

区	分	月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之	保坂 尚志	野川 秀之	山下 哲	保坂 尚志
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来) 藤本 栄	藤本 栄		今井 久雄	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 深井 康幸 持田 泰 小川 敦 小澤 大悟	尾嶋 仁(新患) 深井 康幸 持田 泰 小澤 大悟	尾嶋 仁 深井 康幸 持田 泰 小川 敦 小澤 大悟
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 宮本 健志 森下亜希子	柳田 康弘 藤澤 知巳 宮本 健志 森下亜希子	乳腺科医師 (新患のみ)	乳腺科医師 (新患のみ)	柳田 康弘 (遺伝)
		呼吸器			藤田 敦 小野里良一		藤田 敦
		形成	廣瀬 太郎				廣瀬 太郎
	精神腫瘍科				村上 忠		(午後ストーマ外来)
第二外来	婦人科	中村 和人 伊吹 友二 木暮 圭子 松田 知子	中村 和人 伊吹 友二 木暮 圭子 松田 知子	鹿沼 達哉	中村 和人	中村 和人 伊吹 友二 木暮 圭子 松田 知子	
	歯科口腔外科	新垣 理宣		新垣 理宣		新垣 理宣	
	頭頸科	鈴木 政美 高橋 亮介 (午前再診)		鈴木 政美 高橋 亮介 (午前再診)		鈴木 政美 高橋 亮介 (午前再診)	
				鈴木 政美 高橋 亮介 (午後新患)		鈴木 政美 高橋 亮介 (午後新患)	
	麻酔科	麻酔科医師				麻酔科医師 (午前 術前診察)	
	泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 村松 和道			清水 信明 蓮見 勝 村松 和道	清水 信明 蓮見 勝
泌尿器科医師 (午後、新患のみ)		泌尿器科医師 (午後、新患のみ)	(1日リンパ外来)				
放射線科	放射線	江原 威 永島 潤 安藤 謙	江原 威 永島 潤 安藤 謙	江原 威 永島 潤 安藤 謙	江原 威 永島 潤 安藤 謙	江原 威 永島 潤 安藤 謙	

※緩和ケア外来の受診を希望される方は“がん相談支援センター”へお問い合わせください。直通電話：0276-60-0679

冬季流行感染症（インフルエンザ・感染性胃腸炎）の感染防止のお願い

- 冬は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症が流行しやすい時期です。感染症の持ち込みを防ぐため、お急ぎでない場合には、面会をお控えください。
- 発熱、咳、鼻水、のどの痛み、嘔吐、下痢などの症状がある方、冬季流行感染症にかかってから1週間未満の方、抵抗力の弱い子供さん（12歳以下）の面会にご遠慮ください。
- 来院の際は、手指消毒をお願いします。また、院内ではマスクの着用をおすすめします。

<ご理解ご協力のほど、よろしくお願いします>

診察予約（初診、再診ともに予約制です。）

初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。

がん検診について

当センターでは、がんの検診（一次検診）は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってあります。

予約電話 0276-38-0762

- 受付時間：午前9時から午後5時（休診日を除く）
- 電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までにお願います。

※休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

入院者の面会時間 午後0時30分～午後7時30分

群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1
TEL 0276-38-0771 (代)
FAX 0276-38-0614
URL <http://www.gunma-cc.jp>

